

大阪市議員 前田かずひこ



地域に根ざした、なくてはならない建物 豊崎東会館の存続に向けて



産経新聞 「豊崎東会館 存続を」

平成29年12月、産経新聞が豊崎東会館存続を「という記事」を掲載した。そこには、大正十五年、大正時代に「市立心華婦人会館」として女性の職業訓練などを行う場であったこと、終戦直後には戦災被災者や孤児の支援拠点であったこと、現在では地域の集会所や高齢者、不登校児童らを支援する地域ボランティアの活動拠点であることなどが紹介された。

「大正時代」のモダン建築 豊崎東会館 存続を

大阪府日本橋大の館になった大正時代の「大正時代」の建築で、現在もボランティアなどの活動拠点となっている豊崎東会館（大阪市北区）が、産経新聞に掲載された記事で、大正時代に「市立心華婦人会館」として女性の職業訓練などを行う場であったこと、終戦直後には戦災被災者や孤児の支援拠点であったこと、現在では地域の集会所や高齢者、不登校児童らを支援する地域ボランティアの活動拠点であることなどが紹介された。



昨年3月での閉館が決まった豊崎東会館

より分かりやすく。WEBサイトができました。

今さら聞けない
大阪都構想

ホンマにこれでええの？

<http://osakar.jp>

収録内容

メインコンテンツ	サブコンテンツ
<ul style="list-style-type: none"> ぶっちゃけ教えて！ 都構想って、なあに？ なんのこっちゃ？ 特別区や総合区ってなあに？ ちょっと待った！ それ聞いてへんで！ 	<ul style="list-style-type: none"> 衝撃① 都になる法律が存在しないって本当？ 衝撃② 実は、都構想になると「三重行政」になるって本当？ 衝撃③ 大阪府が政令指定都市じゃなくなると、何が困るの？ 衝撃④ 特別区になると、大阪市民の貯金を取り崩さないとイケない！？ 衝撃⑤ 特別区になると、大阪市民の税金が大阪市外へ流失！？ 衝撃⑥ 特別区になると、大阪市民は二重に納税！？ 衝撃⑦ 4つの特別区にすると、どんな影響があるの？

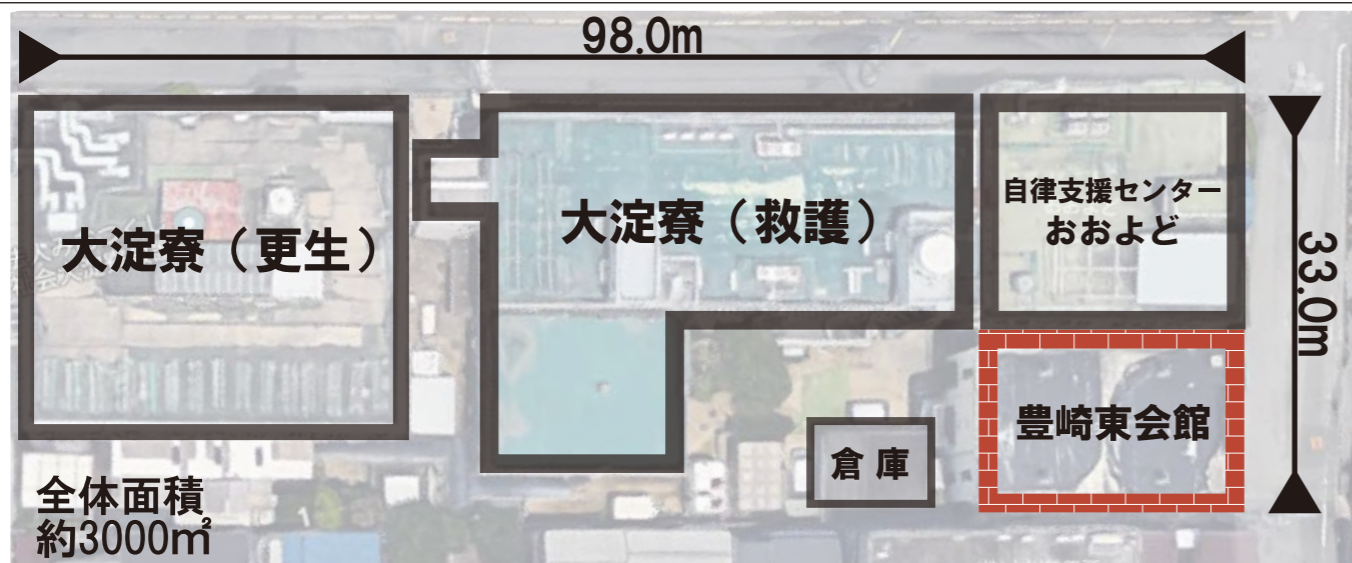
発行者 プロフィール

自由民主党 大阪市議員 **前田かずひこ**

平成13年 3月	神戸大学 卒業	自民党大阪市議員団 前副政調会長
平成26年12月	財務省 退職	大阪市・税財政制度特別委員会 委員
平成27年 4月	大阪市議員 北区選出	民生保健委員会 自民党代表
保有資格	不動産鑑定士 行政書士	空家対策協議会 委員 自民党総合区プロジェクトチーム 座長

前田かずひこ
オフィシャルWEBサイト

〒530-0041 大阪市北区天神橋七丁目5番8号
前田かずひこ市政事務所
ご意見・お問い合わせは、maedaoffices@gmail.comまで



陳情書を受け、質疑を行いました



豊崎東会館について耐震化等を実施し、引き続き存続させるために、地域の1600名を超える方々の署名による陳情書の提出を受けて質疑を行いました。

市民の財産は地域のために

大阪市は、過去、豊崎東会館とそこに隣接する大淀寮自立支援センターを含めた敷地約3000㎡について、建物の取り壊しによる売却なども選択肢に検討が進められてきました。

しかし、豊崎東会館は福祉的活動や地域活動の拠点として重要な役割を担っており、これらの拠点がなくなることは、様々な活動が縮小され、豊崎東地域にとつてもマイナスの影響を及ぼすこととなります。

また、こうした豊崎東会館をはじめとする北区に所在する大阪市の保有する土地は非常に少なく、3000㎡を超える市有地はほとんどありません。万が一これらが入札等により売却されると、大型のマンションが建設されるだけで、必ずしも地域住民にとって有効に活用されたとは言えません。

豊崎東会館を存続させ引き続き利用できるようにするためには、まずは同会館の耐震化調査等を実施する必要があります。

今回の議会質疑を通じて、大阪市の豊崎東会館の耐震化調査を早急に実施するよう要請を行いました。



報告 全庁的な検討へ

今回の質疑を受けて、大阪市は福祉的活動や地域活動の拠点としての豊崎東会館の役割を重視。**豊崎東会館の耐震化・修繕費用の調査を行うとともに、全庁的に活用方策を検討、北区役所と連携しながら、取り組んでいくこととなりました。**

地域と伴に在る、豊崎東会館



地域の歴史が息づいた かけがえのない活動拠点

豊崎東会館は、これまで豊崎東地域の地域活動や福祉的な活動の中心的な活動拠点として利用されてきました。

心華婦人会が大阪市に所有財産を寄付し、その代償として大正十五年に建築されたのが現在の豊崎東会館であり、戦後の混乱期においては、戦災罹災者、母子家庭、誇示など福祉の下支えとして地域と共に歩んできた歴史が、今も息づいています。

こうした歴史的背景を受け、地域の方々による車いすの貸し出し、就学前の行事や児童の居場所づくりなどの福祉的な活動、百歳体操、食事付サービスを始めとする高齢の方々の繋がりづくりなど、豊崎東地域のみならず、多くの方々を支えるための施設として存続してきました。



大阪市は、過去から豊崎東会館について「建物は古いものの、耐震基準は満たされている」と、地域住民に再三説明してきました。

しかしながら、平成29年に大阪市が豊崎東会館を含む土地の有効活用について調査する中で、同年7月に耐震改修が未実施であることが判明したのです。

そして同年8月に突如、大阪市から「耐震化が行われていない状況が判明した」として、豊崎東会館の供用を停止し、即時退去するように指示があったのです。

現在、豊崎東会館で行われていた様々な福祉的な活動や地域活動は、別の場所で行うことになっていくことを余儀なくされています。



豊崎東会館の歴史と 文化的価値

平成29年11月に開催された「豊崎東会館の歴史と文化的価値」を訴えるシンポジウムには、多くの方々が賛同し、同会館を訪れました。シンポジウムでは、大学教授や学芸員、建築士などの専門家の方々が登壇し、東会館の建築経緯について説明がありました。専門家によると、歴史的にも建築的にも非常に価値があり、これまでの地域活動の礎を築いてきた豊崎東会館は、大阪の建築遺産として後世に引き継いでいくべきものであるとのメッセージが添えられました。そして、来場者全員が署名に賛同し、存続に向けた地域の取り組みが加速することになったのです。